

西本願寺で法統継承式□1  
阿弥陀さまと私□2  
新・祖蹟点描□3  
法統継承式特集□4  
本山・教区・各組の動き□7  
つれもて聴こら□8



江戸時代後期の鶯森御坊  
『紀伊国名所図会』に掲載された

2014年(平成26年)  
7月1日  
第101号

発行:「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鶯森1番地 本願寺鶯森別院内 TEL(073)422-4677 URL http://saginomori.or.jp/

5年  
和歌山教区では、1944年(昭和20年)7月9日の和歌山大空襲の惨状に思いをはせ、戦争犠牲者を追悼

今年も7月9日、鶯森別院  
し平和への取り組みを進め  
るため、第21回平和を希う  
念佛者の集い—全戦没者追悼  
法要—を鶯森別院で開く。

午後1時半から正信念佛  
偈をお勤めし仏教讃歌を唱  
和、「憲法9条は仏さまの  
願いです」と題した石川欣  
也師(大和郡山市高田町・  
善正寺)の講演を聞く。  
ご自由にお参りください。

## 「平和を希う念佛者の集い」

# 本願寺で法統継承式

## 即如ご門主から専如ご門主へ



法統継承式の法要で御影堂内陣を進まれる専如ご門主

### 法要表白で親鸞聖人 御真影前に決意表明

法統継承式第一部の法要  
は午前10時から、新しくご  
門主となつた専如ご門主が  
導師を務め、阿弥陀堂と御  
影堂で相次いで勤められた。  
専如ご門主は、宗祖親鸞

専如門主	略年譜
1977年	ご誕生
1992年	お得度され、新門となる
2003年	浄土真宗本願寺派仏教青年連盟総裁に就任
2008年	築地本願寺副住職に就任
2010年	ボーリス・カウト日本連盟特別顧問に就任
2014年6月6日	本願寺住職、浄土真宗本願寺派門主に就任

宗門に時代即応の変革を  
促す専如ご門主のお言葉に、  
満堂の参拝者からはお念佛  
のどよめき。喜びと期待を  
胸にお勤め唱和する参拝者  
の声が、堂内に響き渡った。

京都の本山本願寺で6月6日、第25代専如ご門主(大谷光淳門主)が第24代即如ご門主(大谷光眞門主)から宗祖親鸞聖人以来の法統(仏法の伝統)を継承し、本願寺住職と浄土真宗本願寺派門主の両職を受け継ぐ「法統継承式」が行われ、全国から参集した約8000人の僧侶と門徒らを前に、法要と式典が執り行われた。

聖人の御真影を安置する御影堂でのお勤めに際し、法要の意義を述べる表白の中で、親鸞聖人の御真影を前に決意表明。

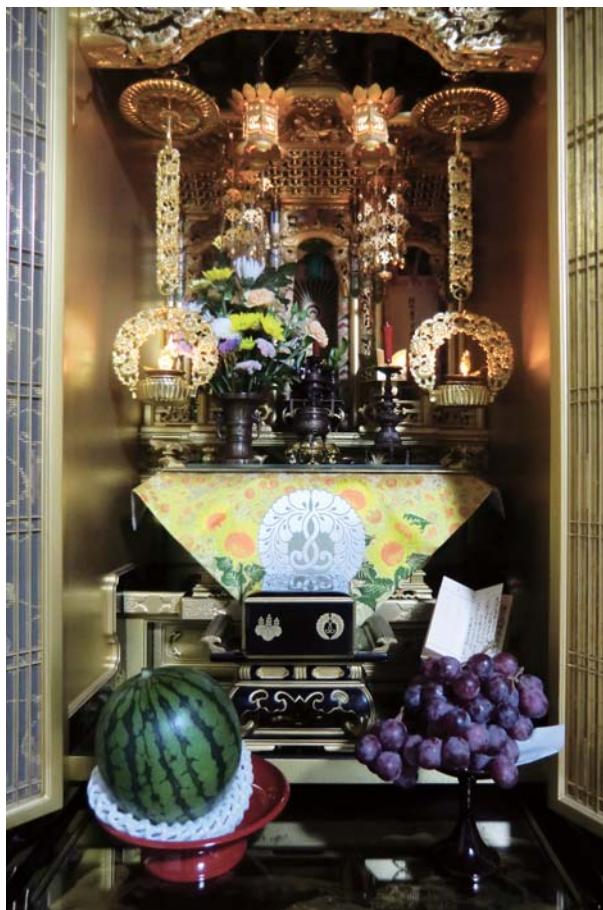
「顧みますと、宗門をとりまく社会の構造は、現在大きく変化しており、伝道

教化のあり方に、大胆な発想の転換が求められています。よって、門信徒の方々の一人ひとりが、浄土真宗を身近に感じられるよう、世代や地域の多様性に即して、み教えとつながる機会を作り出していくことが大切です。ここにおいて、如來の確かな救いに支えられ、自己を省みつつ、人々の苦惱に向き合い、共に浄土への人生を歩む念佛者の輪が、いよいよ広がっていくことを願つてやみません」

(4)(5)(6)面に関連記事

# 阿弥陀さま

## ハウツー仏事と私



お盆のお飾りの一例。前卓に涼しそうな夏物の打敷を掛け、季節の仏華と果物をお供え

③ お盆

あとひと月もすると「お盆」の時期が来ます。お盆休みで日本中が『民族大移動』して生まれ故郷に帰る季節です。お盆は「お彼岸」と共に、日本人に最もなじみの深い仏教行事と言えます。

## ご先祖しひび仏さまの救い喜ぶ

月十五日に十方の衆僧に供養すればよい」と説かれたのです。

### 本当の供養とは

供養とは、ここではそのもともとの意味で、お坊さま方にに対する敬いの気持ちから、食べ物や飲み物を振舞つてもなし、生活に必要な物資などを施すことを指しますが、目連尊者はお釈迦さまの仰せの通り、精いっぱいお坊さま方をもて

日本で盂蘭盆会（お盆の法要）が初めて勤められたのは606年（推古天皇14）だそうですが、その仏事の基になっているのが『盂蘭盆經』というお経です。

あるとき目連尊者が亡き母がどの世界に生まれているのかを神通力で見てみると、餓鬼道という常に飢えと渴きに苦しむ世界に落ちていることを発見します。骨と皮になつて苦しんでいる母親の姿を悲しんだ目

蓮尊者は、鉢に盛ったご飯を差し上げようとしたのですが、母親が口に入れようとすると、たちまち火を噴いて炭になってしまいます。

そこで目連尊者がお釈迦さまに母親の救われる方法を尋ねると、お釈迦さまは、「十方衆僧（すべての僧侶）の威神力によって救われる」と説かれ、そして「夏安居（僧侶が約3カ月の雨季の間、僧院にとどまり行に専念すること）が終了する七

月十五日に十方の衆僧に供養すればよい」と説かれたのです。

なしたところ、「三宝功德」の力、十方衆僧の威神の力によって母親は救われた、と主人公に説かれています。

ここで重要なのは、目連尊者のお母さんが餓鬼道から救われたのは、仏教において最も大切な三つの宝を尋ねると、お釈迦さまは、(三宝)である仏(仏さま)、法(仏法)、僧(僧団)の功德の力、十方衆僧の威神の力によるものだったという点です。

お盆といえども、世間一般には、帰つてこられた先祖に、読経やお供えをして供養(ここでいうのは追善供養)し、お墓参りをする事が、その意味だと思っておられる方が多いようですが、これは日本古来の信仰の中に國の慣習と仏教儀式が混じり合つたものだと言えます。

### 浄土真宗のお盆

ですから、他の宗派のように迎え火や送り火は必要ありませんし、ご先祖を迎えるための精霊棚(盆棚)を設けて、そこにお膳や生野菜などを供えることもいたしません。

お盆の本来の由来

お盆の本来の由来からすれば、自分の力でご先祖のために何かをするのではなく、私自身が三宝に帰依し、

(松本教智・「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員長)

のただということです。

さらに言えば、浄土真宗では、亡き方はお淨土に生まれ仏さまに成つておら

れる方と味わつてまいりますので、私たちの都合に合わせて、お盆の期間だけこの世に帰つてこられる方ではありません。仏さまと少しでも私たちに働き掛けて、私たちが救われていけます。



千手觀音菩薩を本尊とする本堂

親鸞聖人は父母の温かい膝下に幼少期を送られたのではなかったようなのである。

父の有範公について言えば、親鸞聖人の幼少期に亡くなられたか、あるいは出家隠棲されたと考えられている。

幼稚にして父を喪し給ひける」とあること。

そのため親鸞聖人は、伯父（有範公の兄）である範綱の猶子（養子）にならねばならぬと、「最須敬重絵詞」は続けて記している。

ところが戦後、「幼稚にして父を喪し給ひける」ところが戦後、「幼稚にして父を喪し給ひける」との記述が疑問視される資料が、西本願寺で見つかる。それは、覺如上人の長男

武士の台頭によつて戦乱が頻発する時代状況と、それが「末法の世」に結び付ける人々の悲観的な意識に加えて、より切実な事情が

新

# 祖蹟点描

## 3 三室戸寺



存覚上人が書写した無量寿經上巻の奥書に記された、「本は御室戸大進入道殿に有範上人御親父御中陰の時、兼有律師加持せらるるの由」

…」（原漢文）との言葉。

有範公を「御室戸大進入道殿」と表現しているのは、有範が皇太后宮大進の職を退き、入道（出家）して御室戸（三室戸）に隠棲したことによるわけである。

（本山修驗宗）は、宝龜年間（770～781）に光仁天皇の勅願によって創建された、その御室（お住まい）があつたため、古くは御室寺と書かれた。

本堂に向かつて右隣に建つ阿弥陀堂は、親鸞聖人の墓上に建立したものといい、堂

## 聖人の父・有範公を偲ぶ

有範公ゆかりの阿弥陀堂（右）に掛けられた四十八願寺の扁額（下）

親鸞聖人の幼少期に影を落としていた。

それは家庭環境である。

なるのは、親鸞聖人のひ孫覚如上人の伝記『最須敬重絵詞』に、親鸞聖人が「幼

き、入道（出家）して御室戸（三室戸）に隠棲したこ

この兼有律師を含め、親鸞聖人には尋有、兼有、有

意、行兼という4人の弟がおられたというが（日野一

流系図）、親鸞聖人が数え

（本山修驗宗）は、宝龜年間（770～781）に光仁天皇の勅願によって創建された、その御室（お住まい）があつたため、古くは御室寺と書かれた。

本堂に向かつて右隣に建つ阿弥陀堂は、親鸞聖人の墓上に建立したものといい、堂

の正面に掛けられた「四十八願寺」の扁額は、有範公が隠棲したお寺の額と伝えられる。有範公をしのぶよすがである。

ところで、親鸞聖人の母親については、源義家の孫娘で、名を貴光女あるいは吉光女といい、親鸞聖人が8歳のときに亡くなつたと

伝える資料はあるものの、実像はようとして知れない。

（本紙編集部）

## 伝える四十八願寺の名残り

とを伺わせるし、書写したもとの本は、「有範公が亡くなつて四十九日の間に、

年9歳で出家されたのを筆頭に、5人兄弟すべてが出家して僧となつてゐる。

有範公が出家隠棲された

にも、5人の息子を残していくかねばならなかつた

事情について、いろいろと想像を誘われるのである。

（本紙編集部）

**即如前門さま葉言お**  
おかげさま  
で、この日を  
迎えることが  
できました。  
退任に際し  
て、申すべき  
ことは、昨日  
発布いたしま  
した消息に記  
したおりですが、かさね  
て、感謝の意を表し、少し、  
補足いたします。  
まず、在職37年2カ月の  
間、宗門の歩みを共にし、  
てくださいました。



私と坊守裏方を支え、助け  
てくださった方々に、心よ  
り、感謝申しあげます。力  
の及ばなかった点が多くあ  
りますが、皆さま、よく、  
辛抱してくださいました。  
それぞれの場で、努力を重  
くお願いいたします。

族、門信徒の方々の姿に励  
まされた37年でした。  
印象に残る事柄はたくさん  
あります。あと、二つだけ申します。

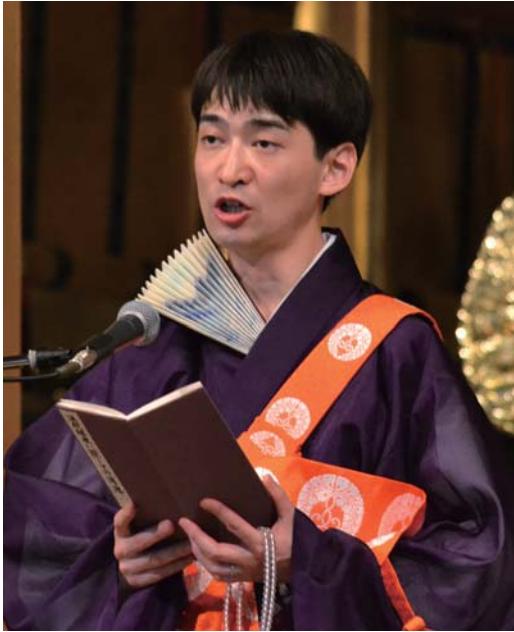
一つは、組巡教を果たし  
遂げることができたことで  
す。多くの方々のお世話を  
なりました。さまざまの貴  
重な体験をいたしました。  
なかでも、組の連続研修の  
成果を実感する得難い機会  
がありました。

# 宗門の現況見据え 今こそ英知結集を

## 新たなスタートに新旧門主がお言葉

法統継承式第一部の法要に引き続き御影堂で行われた第二部の式典では、専如門主が「法統継承に際しての消息」を発布。ご消息を読み上げられた専如門主は、ご消息を授与されたあと、重ねて「お言葉」。続いて、即如前門主も「お言葉」を述べられ、新旧ご門主の印象深いお言葉の数々は、宗門に新たな一步を刻んだ。(ご消息とお言葉は本願寺新報6月10日号から転載)

**専如ご門主**  
本日、私は先代  
門主の意に従い、  
法統を継承し、本  
門主に就任いたし  
ました。



ここに先代門主の長きに  
わたるご教導に深く感謝し  
ますとともに、法統を継承  
した責任の重さを思い、能  
う限りの努力をいたす決意  
であります。

積尊の説き明かされた阿  
弥陀如来のご本願の救いは、  
七高僧の教えを受けた宗祖  
親鸞聖人によって、浄土真  
宗というご法義として明ら  
かにされ、その後、歴代の  
宗主を中心として、多く  
の方々に支えられ、現代ま  
で伝えられてきました。そ

うに、境内各所においてご参  
拝いただくことになり、ご  
不便をおかけしました。

さて、親鸞聖人が説かれ  
た浄土真宗の教えは、主著

くして他の因のあるにはあ  
らざるなり」と示されてい  
るよう、

もしは信、一事として阿弥  
陀如來の清淨願心の回向成  
就したまふところにあらざ  
ることあることなし。因な  
くして他の因のあるにはあ  
らざるなり」と示されてい  
るよう、

阿弥陀さまのはたらきに  
よってこの私たちのが救わ  
れるという教えがあります。  
なぜなら、阿弥陀さまのは  
たらきに

もたらさない命を生きてい  
くのが浄土真宗の教えを依  
りどけるとする者の生き方  
であります。それは、

いつの時代であっても、ま  
たどの場所であっても変わ  
ることはありません。

しかし、今日の社会状況  
において、今までと同じよ  
うに教えを次世代へと伝え  
ることが困難になってしま  
います。また、仏教や浄土真宗  
の教え、親鸞聖人に対する  
関心はあっても、お寺との  
縁がない方も多くおられ  
ています。多くの方にお寺へお  
参りいただけるような取り  
組み、教えを伝えていく工  
夫が必要です。それぞれの  
寺院、僧侶、寺族、門信徒  
一人一人の活動が重要にな  
ります。親鸞聖人は道緯禪

の流れを受け継いで今ここ  
に法統を継承し、未来に向  
けてご法義が伝えられてい  
ますよう、力を尽くした  
いと思います。

宗門の過去を振りかえり  
ますと、あるいは時代の常  
識に疑問を抱かなかつたこ  
とにによる対応、あるいは宗  
門を存続させるための苦渉  
の選択としての対応など、  
ご法義に順つていないと思  
える対応もなされてきました。  
このような過去に学び、  
ますとともに、法統を継承  
した責任の重さを思い、能  
う限りの努力をいたす決意  
であります。

積尊の説き明かされた阿  
弥陀如来のご本願の救いは、  
七高僧の教えを受けた宗祖  
親鸞聖人によって、浄土真  
宗というご法義として明ら  
かにされ、その後、歴代の  
宗主を中心として、多く  
の方々に支えられ、現代ま  
で伝えられてきました。そ

うに、境内各所においてご参  
拝いただくことになり、ご  
不便をおかけしました。

さて、親鸞聖人が説かれ  
た浄土真宗の教えは、主著

くして他の因のあるにはあ  
らざるなり」と示されてい  
るよう、

阿弥陀さまのはたらきに  
よってこの私たちのが救わ  
れるという教えがあります。  
なぜなら、阿弥陀さまのは  
たらきに

もたらさない命を生きてい  
くのが浄土真宗の教えを依  
りどけるとする者の生き方  
であります。それは、

いつの時代であっても、ま  
たどの場所であっても変わ  
ることはありません。

しかし、今日の社会状況  
において、今までと同じよ  
うに教えを次世代へと伝え  
ることが困難になってしま  
います。また、仏教や浄土真宗  
の教え、親鸞聖人に対する  
関心はあっても、お寺との  
縁がない方も多くおられ  
ています。親鸞聖人は道緯禪

の流れを受け継いで今ここ  
に法統を継承し、未来に向  
けてご法義が伝えられてい  
ますよう、力を尽くした  
いと思います。

宗門の過去を振りかえり  
ますと、あるいは時代の常  
識に疑問を抱かなかつたこ  
とにによる対応、あるいは宗  
門を存続させるための苦渉  
の選択としての対応など、  
ご法義に順つっていないと思  
える対応もなされてきました。  
このような過去に学び、  
ますとともに、法統を継承  
した責任の重さを思い、能  
う限りの努力をいたす決意  
であります。

積尊の説き明かされた阿  
弥陀如来のご本願の救いは、  
七高僧の教えを受けた宗祖  
親鸞聖人によって、浄土真  
宗というご法義として明ら  
かにされ、その後、歴代の  
宗主を中心として、多く  
の方々に支えられ、現代ま  
で伝えられてきました。そ

うに、境内各所においてご参  
拝いただくことになり、ご  
不便をおかけしました。

さて、親鸞聖人が説かれ  
た浄土真宗の教えは、主著

くして他の因のあるにはあ  
らざるなり」と示されてい  
るよう、

阿弥陀さまのはたらきに  
よってこの私たちのが救わ  
れるという教えがあります。  
なぜなら、阿弥陀さまのは  
たらきに

もたらさない命を生きてい  
くのが浄土真宗の教えを依  
りどけるとする者の生き方  
であります。それは、

いつの時代であっても、ま  
たどの場所であっても変わ  
ることはありません。

しかし、今日の社会状況  
において、今までと同じよ  
うに教えを次世代へと伝え  
ることが困難になってしま  
います。また、仏教や浄土真宗  
の教え、親鸞聖人に対する  
関心はあっても、お寺との  
縁がない方も多くおられ  
ています。親鸞聖人は道緯禪

の流れを受け継いで今ここ  
に法統を継承し、未来に向  
けてご法義が伝えられてい  
ますよう、力を尽くした  
いと思います。

宗門の過去を振りかえり  
ますと、あるいは時代の常  
識に疑問を抱かなかつたこ  
とにによる対応、あるいは宗  
門を存続させるための苦渉  
の選択としての対応など、  
ご法義に順つっていないと思  
える対応もなされてきました。  
このような過去に学び、  
ますとともに、法統を継承  
した責任の重さを思い、能  
う限りの努力をいたす決意  
であります。

積尊の説き明かされた阿  
弥陀如来のご本願の救いは、  
七高僧の教えを受けた宗祖  
親鸞聖人によって、浄土真  
宗というご法義として明ら  
かにされ、その後、歴代の  
宗主を中心として、多く  
の方々に支えられ、現代ま  
で伝えられてきました。そ

うに、境内各所においてご参  
拝いただくことになり、ご  
不便をおかけしました。

さて、親鸞聖人が説かれ  
た浄土真宗の教えは、主著

くして他の因のあるにはあ  
らざるなり」と示されてい  
るよう、

阿弥陀さまのはたらきに  
よってこの私たちのが救わ  
れるという教えがあります。  
なぜなら、阿弥陀さまのは  
たらきに

もたらさない命を生きてい  
くのが浄土真宗の教えを依  
りどけるとする者の生き方  
であります。それは、

いつの時代であっても、ま  
たどの場所であっても変わ  
ることはありません。

しかし、今日の社会状況  
において、今までと同じよ  
うに教えを次世代へと伝え  
ることが困難になってしま  
います。また、仏教や浄土真宗  
の教え、親鸞聖人に対する  
関心はあっても、お寺との  
縁がない方も多くおられ  
ています。親鸞聖人は道緯禪

の流れを受け継いで今ここ  
に法統を継承し、未来に向  
けてご法義が伝えられてい  
ますよう、力を尽くした  
いと思います。

宗門の過去を振りかえり  
ますと、あるいは時代の常  
識に疑問を抱かなかつたこ  
とにによる対応、あるいは宗  
門を存続させるための苦渉  
の選択としての対応など、  
ご法義に順つっていないと思  
える対応もなされてきました。  
このような過去に学び、  
ますとともに、法統を継承  
した責任の重さを思い、能  
う限りの努力をいたす決意  
であります。

積尊の説き明かされた阿  
弥陀如来のご本願の救いは、  
七高僧の教えを受けた宗祖  
親鸞聖人によって、浄土真  
宗というご法義として明ら  
かにされ、その後、歴代の  
宗主を中心として、多く  
の方々に支えられ、現代ま  
で伝えられてきました。そ

うに、境内各所においてご参  
拝いただくことになり、ご  
不便をおかけしました。

さて、親鸞聖人が説かれ  
た浄土真宗の教えは、主著

くして他の因のあるにはあ  
らざるなり」と示されてい  
るよう、

阿弥陀さまのはたらきに  
よってこの私たちのが救わ  
れるという教えがあります。  
なぜなら、阿弥陀さまのは  
たらきに

もたらさない命を生きてい  
くのが浄土真宗の教えを依  
りどけるとする者の生き方  
であります。それは、

いつの時代であっても、ま  
たどの場所であっても変わ  
ることはありません。

しかし、今日の社会状況  
において、今までと同じよ  
うに教えを次世代へと伝え  
ることが困難になってしま  
います。また、仏教や浄土真宗  
の教え、親鸞聖人に対する  
関心はあっても、お寺との  
縁がない方も多くおられ  
ています。親鸞聖人は道緯禪

の流れを受け継いで今ここ  
に法統を継承し、未来に向  
けてご法義が伝えられてい  
ますよう、力を尽くした  
いと思います。

宗門の過去を振りかえり  
ますと、あるいは時代の常  
識に疑問を抱かなかつたこ  
とにによる対応、あるいは宗  
門を存続させるための苦渉  
の選択としての対応など、  
ご法義に順つっていないと思  
える対応もなされてきました。  
このような過去に学び、  
ますとともに、法統を継承  
した責任の重さを思い、能  
う限りの努力をいたす決意  
であります。

積尊の説き明かされた阿  
弥陀如来のご本願の救いは、  
七高僧の教えを受けた宗祖  
親鸞聖人によって、浄土真  
宗というご法義として明ら  
かにされ、その後、歴代の  
宗主を中心として、多く  
の方々に支えられ、現代ま  
で伝えられてきました。そ

うに、境内各所においてご参  
拝いただくことになり、ご  
不便をおかけしました。

さて、親鸞聖人が説かれ  
た浄土真宗の教えは、主著

くして他の因のあるにはあ  
らざるなり」と示されてい  
るよう、

阿弥陀さまのはたらきに  
よってこの私たちのが救わ  
れるという教えがあります。  
なぜなら、阿弥陀さまのは  
たらきに

もたらさない命を生きてい  
くのが浄土真宗の教えを依  
りどけるとする者の生き方  
であります。それは、

いつの時代であっても、ま  
たどの場所であっても変わ  
ることはありません。

しかし、今日の社会状況  
において、今までと同じよ  
うに教えを次世代へと伝え  
ることが困難になってしま  
います。また、仏教や浄土真宗  
の教え、親鸞聖人に対する  
関心はあっても、お寺との  
縁がない方も多くおられ  
ています。親鸞聖人は道緯禪

の流れを受け継いで今ここ  
に法統を継承し、未来に向  
けてご法義が伝えられてい  
ますよう、力を尽くした  
いと思います。

宗門の過去を振りかえり  
ますと、あるいは時代の常  
識に疑問を抱かなかつたこ  
とにによる対応、あるいは宗  
門を存続させるための苦渉  
の選択としての対応など、  
ご法義に順つっていないと思  
える対応もなされてきました。  
このような過去に学び、  
ますとともに、法統を継承  
した責任の重さを思い、能  
う限りの努力をいたす決意  
であります。

積尊の説き明かされた阿  
弥陀如来のご本願の救いは、  
七高僧の教えを受けた宗祖  
親鸞聖人によって、浄土真  
宗というご法義として明ら  
かにされ、その後、歴代の  
宗主を中心として、多く  
の方々に支えられ、現代ま  
で伝えられてきました。そ

うに、境内各所においてご参  
拝いただくことになり、ご  
不便をおかけしました。

さて、親鸞聖人が説かれ  
た浄土真宗の教えは、主著

くして他の因のあるにはあ  
らざるなり」と示されてい  
るよう、

阿弥陀さまのはたらきに  
よってこの私たちのが救わ  
れるという教えがあります。  
なぜなら、阿弥陀さまのは  
たらきに

もたらさない命を生きてい  
くのが浄土真宗の教えを依  
りどけるとする者の生き方  
であります。それは、

いつの時代であっても、ま  
たどの場所であっても変わ  
ることはありません。

しかし、今日の社会状況  
において、今までと同じよ  
うに教えを次世代へと伝え  
ることが困難になってしま  
います。また、仏教や浄土真宗  
の教え、親鸞聖人に対する  
関心はあっても、お寺との  
縁がない方も多くおられ  
ています。親鸞聖人は道緯禪

の流れを受け継いで今ここ  
に法統を継承し、未来に向  
けてご法義が伝えられてい  
ますよう、力を尽くした  
いと思います。

宗門の過去を振りかえり  
ますと、あるいは時代の常  
識に疑問を抱かなかつたこ  
とにによる対応、あるいは宗  
門を存続させるための苦渉  
の選択としての対応など、  
ご法義に順つっていないと思  
える対応もなされてきました。  
このような過去に学び、  
ますとともに、法統を継承  
した責任の重さを思い、能  
う限りの努力をいたす決意  
であります。

積尊の説き明かされた阿  
弥陀如来のご本願の救いは、  
七高僧の教えを受けた宗祖  
親鸞聖人によって、浄土真  
宗というご法義として明ら  
かにされ、その後、歴代の  
宗主を中心として、多く  
の方々に支えられ、現代ま  
で伝えられてきました。そ</



お勤め唱和する満堂の参拝者(御影堂)

## 法統継承式に お参りの人波

御影堂門に掲げられた駒札



仮設テントでも熱心にお参り

まん幕が張られお祝いムードの御影堂



法統継承を見守り合掌する参拝者

## 即如ご門主 退任に際しての消息

本日、平成二十六年六月五日をもって、私は本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主を退任し、後を本願寺嗣法・新門に託すことになりました。

昭和五十二年四月一日、法統を継承して以来、三十七年一か月になります。至らぬことが多々あつた中、今日まで務めることができましたのは、仏祖のご加護と申すまでもなく、宗門内外の方々のご支援、ご理解とご協力のお蔭であります。

皆様に、心より感謝申し上げます。

この間、本願寺では、阿弥陀堂の修復、顕如上人四百回忌、蓮如上人五百回遠忌、御影堂の修復、宗祖聖人七百五十回大遠忌等のご縁を皆様とともにすることことができました。さらに、北境内地を取得できたお蔭で、境内地をより広く展開できるようになります。また、宗門では基幹運動の推進と

私たちの宗門は、門信徒一人ひとりに、み教えが受け継がれるという素晴らしい伝統をもつています。こ

きたとは言えないことです。私たちが十分に力を発揮できることは言えません。

平成二十六年  
二〇一四年六月五日

龍谷門主 釋即如

「法統継承式前日の6月5日」には、即如ご門主による「退任に際しての消息」の発布式が、午後3時半から御影堂で行われた。(ご消息は本願寺新報6月10号から転載)

ともに、さまざまの活動や事業がありました。世界各国にも、お念佛の輪が広がっています。それらを、巡教などによって身近に知り、御同朋の思いを確かめることができましたこと、まさに有り難く思います。

この三十七年間は勝如前門主の戦争を挟んだ激変の五十年に比べれば、やや穏やかとも言える時代でした。が、国内では大小の天災・人災が相次ぎ、経済価値が優先された結果、心の問題も深刻化しました。世界では、武力紛争、経済格差、気候変動、核物質の拡散など、深刻なあるいは人類の生存に関わる課題が露わになりました。その中で、心残りは、浄土真宗に生きる

後を継ぎます新門主は、築地本願寺で五年九か月の間、副住職を務めて経験を積み見聞を広めています。今後は、法統を護るとともに、宗門全体を思い、広く宗教界を視野に入れて、務めることとなります。皆様の一層のご支援をお願いいたします。

なお、私は、七十歳まであと一年余りとなりました。先のことは予測できませんが、阿弥陀如来の搖るぎない本願力の中に、宗祖聖人のみ教えを仰ぎ、浄土真宗の僧侶としての務めを、できる限り果たしたいと思っております。

これからも、社会の変動の中において、浄土真宗のみ教えや伝統にある多様な可能性を見つけ出し、各人、各世代、それぞれの個性と条件を活かし、特に若い世代の感性と実行力を尊重して、一人でも多くの方を朋とし、御同朋の社会をめざして歩むことができるよう願っております。

# 青色青光

40年の歩み振り返り  
さらなる活動発展を

## 有賀組仏事年会連盟が記念総会・研修会

和歌山教区有賀組(11力寺)では5月11日、同組西方寺を会場に「第40回有賀組仏事年会連盟総会並びに研修会」を開いた。

同組仏事年会連盟の結成40周年となる節目の年に、連盟結成当初の僧侶・門徒の歩みを振り返りつつ、有賀組仏事年会連盟の結成は昭和59年5月。これは和歌山教区で最も早く、和歌山教区仏事年会連盟の結成に3年先立つものだった。

研修会では、連盟



研修会で法話を聴聞（西方寺本堂）

会となつた。  
学び、未来への思い  
を共有する有意義な

へ異動。

これを受けて6月9日、

は、「平成6年11月に名古

山組西法寺）の記念  
法話を聴聞。過去に  
本仏教慈善会財団事務担当

部賛事社会事業担当、大日

真宗本願寺派伝道本部社会  
部賛事会事業担当、大日

本仏教慈善会財団事務担当

## 送別会に120人

19年勤めた森田副輪番が  
4月1日付で本山へ異動



送別会で花束を受け取る森田師

屋別院から鷺森別院・和歌山教区教務所に転勤してまいりまして、早いもので19年が過ぎました。在任中は、教区内の皆さまに公私にわたり大変お世話になりましたこと、厚く御礼申し上げます。4月より本願寺に異動になりましたが、和歌山での経験を生かし、浅学非才の身ながら精いっぱい勤めさせていただく所存であります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます」と、お礼の言葉。

参加者らは別れを惜しみ  
から120人が詰め掛けた。  
参加者らは別れを惜しみ  
つつ、今後の活躍にエール  
を送っていた。



降誕会恒例の風船上げ

5月の鷺森別院は、二つの恒例法要でにぎわった。5月13日から16日まで勤められた二尊会では、530年ほど前に現在の海南市冷水で本願寺第8代蓮如上人の教化に遇った了賢が賜り、紀州門徒のよりどころとな

勤められ、鷺森幼稚園児と保護者も一緒に親鸞聖人の誕生をお祝いした。  
5月20日は宗祖降誕会が勤められた。鷺森幼稚園児と保護者も一緒に親鸞聖人の誕生をお祝いした。

7月14日、加藤眞悟師(四条畷市岡山東・自然寺)。午後7時30分から9時まで。勤める。両日とも午後1時からお勤め、引き続き法話を聴聞する。19日の講師は高橋格昭鷺森別院輪番。(鷺森別院岡崎支坊 和歌山市森小手穂555)

## 鷺森別院で二尊会と降誕会

つてきた二尊像（親鸞聖人と蓮如上人連座の御影）を本堂に奉懸し、親鸞聖人と蓮如上人の遺徳をしのんだ。

鷺森別院岡崎支坊の催し

### ■常例法座

7月14日、加藤眞悟師(四

条畷市岡山東・自然寺)。午後7時30分から9時まで。

### ■報恩講

9月18、19日、報恩講を

勤める。両日とも午後1時

からお勤め、引き続き法話

を聴聞する。19日の講師は

高橋格昭鷺森別院輪番。

(鷺森別院岡崎支坊 和歌山市森小手穂555)

### 日高別院の催し

#### ■夏安居

8月4、5日、夏安居を開講する。両日とも午前10時から、午後1時30分から

の2座。講題は「正信念佛偈講讚」。会読論題は「信一念義」。講師は内藤知康師(浄土真宗本願寺派勧学)。

9月25日、秋季彼岸会を開講する。午後1時30分から勤める。午後1時30分から勤め、引き続き高橋格昭輪番が法話。午後3時まで。

（本願寺日高別院 御坊100）





前ページから続く

会長||山本勇(和歌山北組慶圓寺)、副会長||八尾

進(和歌山西組正善寺)、平畠栄治(有賀組安樂寺)、

会計||山田英一(御坊組源行寺)、監査||市川博康(加茂組願称寺)、田口耕

作(有田北組西方寺)、委員||児玉順彦(和歌山組西法寺)、安原俊晴(和歌山東組善正寺)、宮本勝利

寺亮(海南組西法寺)、谷口庄正博(有田南組福藏寺)、田端三津雄(日高組宝国寺)、蒲田嵩(紀南組勝徳)

※敬称略

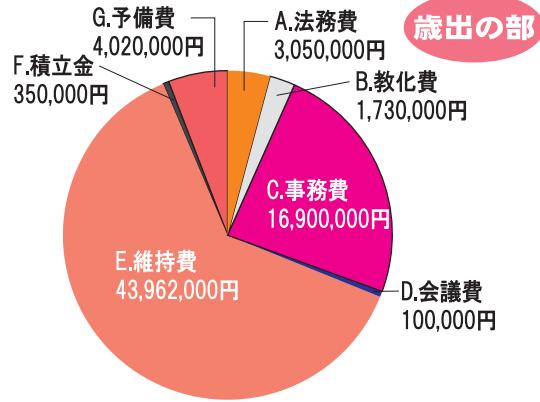
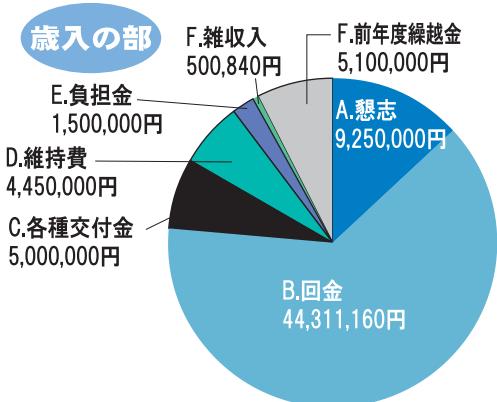
7月より鷺森別院の防犯管理を警備会社に委託し、宿直業務を廃止します。それに伴い、晨朝の時間変更し、通年午前8時からお勤めします。また、夜間の教務所・別院への緊急のご用件には、電話にて対応させていただきますので、鷺森別院までお電話ください。なお、夜間に別院施設の使用を希望される場合は事前にご連絡ください。ご理解ご協力を何卒よろしくお願い申しあげます。

## 鷺森別院からお知らせ

## 平成26年度本願寺鷺森別院一般会計歳計予算

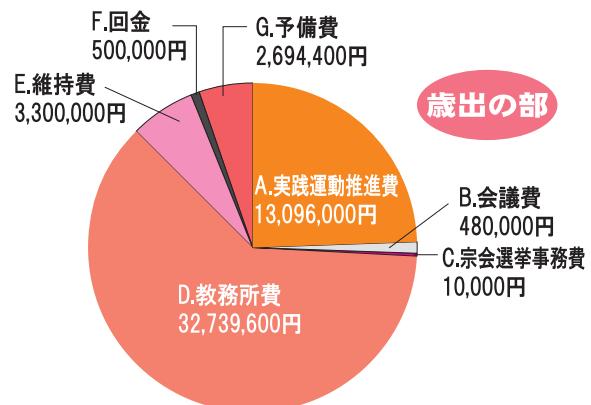
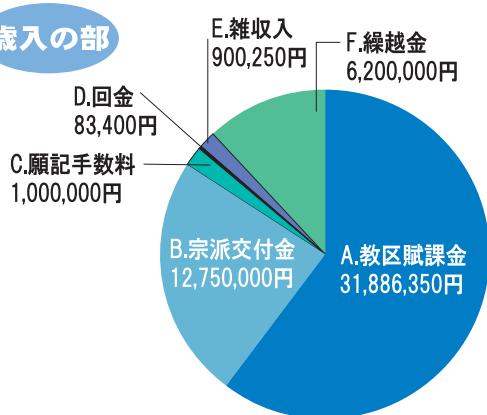
(自 平成26年4月1日～至 平成27年3月31日)

鷺森別院は平成27年で本堂再建20周年を迎えます。そこで、本年は建物の補修工事を計画しており、特別会計本願寺鷺森別院營繕積立金より35,000,000円の回金を含めて一般会計の予算を編成しています。



款	費目	本年度予算額
A	懇志	9,250,000
B	回金	44,311,160
C	各種交付金	5,000,000
D	維持費	4,450,000
E	負担金	1,500,000
F	雑収入	500,840
G	前年度繰越金	5,100,000
	合計	70,112,000

款	費目	本年度予算額
A	法務費	3,050,000
B	教化費	1,730,000
C	事務費	16,900,000
D	会議費	100,000
E	維持費	43,962,000
F	積立金	350,000
G	予備費	4,020,000
	合計	70,112,000



款	費目	本年度予算額
A	教区賦課金	31,886,350
B	宗派交付金	12,750,000
C	願記手数料	1,000,000
D	回金	83,400
E	雑収入	900,250
F	繰越金	6,200,000
	合計	52,820,000

款	費目	本年度予算額
A	実践運動推進費	13,096,000
B	会議費	480,000
C	宗会選挙事務費	10,000
D	教務所費	32,739,600
E	維持費	3,300,000
F	回金	500,000
G	予備費	2,694,400
	合計	52,820,000

**平成26年度和歌山教区一般会計歳計予算**

(自 平成26年4月1日～至 平成27年3月31日)